

## 2022 年度実施概要

学校名

気仙沼市立階上小学校

採択活動名

「豊かな海，気仙沼」見つめよう，考えよう，気仙沼の水産業

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 自然大好き！ぼくらの階上（岩井崎の秘密を探ろう）	3	総合
2. 豊かな海について調べよう・考えよう	5	総合
3. 豊かな海に関わる環境について考えよう	5	総合・社会
4. 水産業のさかんな地域	5	総合・社会
5. 名人発見！ぼくらの階上（明戸虎舞の体験）	3	総合
6. 気仙沼のスローフードを知ろう	6	総合

取り組みの概要

本校の海洋教育は、低学年の生活科において地域の自然に触れ、そのよさに気付くことを土台とし、中・高学年において郷土の豊かな自然環境や生活を営む人々に関わり合うことにつなげている。そこから「郷土の環境や食文化・人との関わりを見つめ、自分の在り方を考え」、「持続可能な郷土の担い手を育む」ことを、教科横断的な学習を通して理解を深めながら取り組んでいる。

そこで、地域の主たる産業である「水産業」と自分たちの暮らしが、豊かな自然環境を生かしながら人々の工夫や努力によって支えられていることに気付き、海と共に生き、ふるさと気仙沼・階上が持続可能な地域になるために、様々な今日的課題を主体的に探究し、発信しようとする児童の育成を目指している。

## 【「海と出会い，なかよくなる」学習活動】

○「自然大好き！ぼくらの階上」（3年）「豊かな海について調べよう・考えよう」（5年）

6月に、3年生と5年生が学区内にある岩井崎の潮だまりで生物調査を行った。3年生は「海の豊かさ」について体験を通して実感し、5年生は海岸に打ち寄せられたごみの種類や量を調べ、「海の豊かさ」とともに「海洋ごみの問題」について考える機会となった。また、気仙沼水産試験場の方から、「海水温の上昇による海への影響」が気仙沼でも起きていることとお話いただいたことで「地球温暖化」についても考えるきっかけとなり、探究学習へとつなげることができた。

子供たちは拾い集めたごみを教室で分別しながら海洋ゴミの多さを実感し、ごみを減らすために自分たちができることは何かを考えた。そして、ペットボトルキャップを集めることを児童会に提案し、全校児童で2、3月に取り組んだ。

## 【「海の恵みを知る」学習活動】

○「豊かな海に関わる環境について考えよう」（5年）

海の豊かさの秘密を探るために、NPO法人「森は海の恋人」副理事長の畠山信氏から、養殖のカキやホタテが育つためには、えさとなるプランクトンにとって必要な「栄養塩類」が必要であることを教えていただいた。その栄養は、海から遠く離れた森の腐葉土の中で作られることを知った。さらに、「豊

かな海」につながる「豊かな森」を知るために、野外宿泊学習で訪れた一関市のブナの原生林を散策し、腐葉土の感触を確かめた。「豊かな森」から栄養分を含んだ水が大川へ流れて気仙沼湾に注ぎ、気仙沼・階上の養殖業に恩恵を与えていることへの理解を深めた。

また、県のこども環境教育の一環として、T.プランニングオフィスの藁谷哲郎氏においでいただき、地球温暖化とCO<sub>2</sub>削減の取組について講話を聞いた。地球温暖化に関するデータやその影響が海にも及んでいることを示しながらの講話は、子供たちにとって地球環境・気仙沼の海を守っていこうと考える大きな一歩となった。

### 【「海を生かす」学習活動】

#### ○「水産業のさかんな地域（ワカメの養殖体験）」（5年）

階上地区漁協青年部千尋会のご協力により、年間を通してワカメの養殖体験を行った。この体験を通して地域の特産品であるワカメの養殖業に携わる人々の思いに直接触れることができた。ワカメの「種付け」「種ばさみ」の作業を体験したり、「刈り取り」「ボイル」作業の見学をしたりすることで地域を知り、また、海水温の上昇や自然災害による環境の変化が、生育や漁獲量に大きな影響を及ぼすことを知る機会にもなった。

### 【「海と生きる文化を重ね、伝える」学習活動】

#### ○「名人発見！ぼくらの階上（明戸虎舞の体験）」（3年）

波路上明戸虎舞保存会のご協力により、「明戸虎舞」の手踊りや太鼓の打ちばやしの体験活動を行った。安全な船の航行や豊漁の願いが込められた伝統文化に触れ、地域のよさや地域の方々の思いに気付くことができた。そして、10月に行われた学習発表会で保護者に披露した。

#### ○「気仙沼のスローフードを知ろう」（6年）

気仙沼の地産地消を進める取組を調べるために、水産物販売・加工、製菓等の事業所を訪ね、人々の思いや工夫について知る機会を設定した。さらに、学習旅行で盛岡へ行き、内陸地域の地産地消について調べ、自分たちの地域と異なる産業を推進する地域と比較することで、自分たちの地域への愛着と地域の食文化を継承していくことへの思いを深めた。



〔岩井崎のごみ拾い調査〕



〔収集したごみの分別〕



〔ワカメの種付け体験〕



〔ワカメ養殖に関する講話〕